

## 知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in那須烏山 開催結果

1	日時	令和4(2022)年6月18日(土) 午後1時30分～3時50分
2	場所	烏山公民館
3	出席者	参加者 45名(男性29名、女性16名) 県側出席者：知事、県民生活部長、経営管理部長、政策企画監
4	発言数	13件(うちアンケート2件)



### 主な発言事項

No.	発言事項	関係部局
1	防災行政無線存続のための県からの補助について (アンケート)	県民生活部
2	防災行政無線の必要性について	県民生活部
3	県道に張り出した樹木の伐採について	県土整備部
4	高齢者の移動手段の確保について (アンケート)	県土整備部
5	急傾斜地の工事終了後の除草作業等の管理について	県土整備部
6	八溝縦貫道路の整備について	県土整備部
7	山あげ俳句全国大会実行委員会の動きについて	県民生活部
8	八溝県民休養公園の活用について	環境森林部
9	子どもの貧困対策、医療的ケア児への支援について	保健福祉部
10	メグロの聖地プロジェクトの広域連携について	産業労働観光部
11	せせらぎ公園への遊具の設置について	県土整備部
12	広域行政の連携について	総合政策部
13	悩みや不安を抱える若者への対応について	県民生活部・保健福祉部

## 知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in那須烏山 発言及び回答要旨

区分	地域版	開催日	令和4(2022)年6月18日(土)		
No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
1	防災行政無線存続のための県からの補助について	アンケート1位 (那須烏山市 70歳代男性)	旧南那須地区内に防犯非常用の放送システムがありますが、古くなり、廃止の方向で進められている。 最近、特に地震等が多く、市民の方からもぜひ残して欲しいという声を耳にするので、防犯非常用の放送システムを残すための補助を県からも出してほしい。	回答者：知事 防災情報を住民の皆さんに伝える手段は、防災行政無線、とちぎテレビや地域のケーブルテレビ、CRT 栃木放送、ラジオを介するもの、あるいはスマートフォン等を使って情報提供するものなど、様々なものがある。地理的特性や、費用対効果も踏まえて、それぞれの市町において、最適な組み合わせを検討している。 このうち、防災行政無線については、国で定める無線通信規格の更新に伴い、那須烏山市で使用しているアナログ方式のシステムは、令和4年12月1日以降も当分の間は使用できるが、いずれは使用できなくなると聞いている。 引き続き使用するためには、アナログからデジタルに変更しなければならず、デジタル方式を採用した防災行政無線の整備が必要になる。 こうしたことを踏まえて、今後の情報伝達手段の確保を、那須烏山市において検討されていると思うが、情報伝達手段の整備にあたっては、他の市町において有利な地方債を活用している先行事例などもあり、そういった情報を提供するなど、引き続き市を支援していきたい。	県民生活部 危機管理課(危機・ 防災情報担当) Tel2133
2	防災行政無線の必要性について	那須烏山市 60歳代男性	市民の安全安心のため、市内全域に防災行政無線を設置してほしい。	回答者：知事 那須烏山市は防災行政無線の今後の整備方針の検討に向け、市民の皆さんの意見を把握するために、災害情報の入手方法、防災行政無線の必要性等について市内3千世帯を対象に現状調査(アンケート)を行う予定と聞いている。 今後アンケート結果を踏まえた対応がなされると思うので県としても市と連携をしていきたい。	県民生活部 危機管理課(危機・ 防災情報担当) Tel2133
3	県道に張り出した樹木の伐採について	那須烏山市 60歳代男性	主要地方道の那須烏山御前山線、横枕地区は山間部で、山から県道に樹木が張り出し、大雨時に倒れたり電線が切れて停電したりする。土木事務所に要望しているが目に見えて進んでいない状態である。豪雨災害時に地域が孤立しないよう張り出している樹木の伐採をお願いしたい。	回答者：知事 日頃より各土木事務所における定期的な道路パトロールや住民の皆様方からの情報提供などで、道路の危険箇所の速やかな把握に努めている。 その上で、道路区域内の樹木については、土地の所有者が自ら伐採するとともに、私有地の樹木については、土地所有者を確認の上、剪定、苧り込みなどの適正管理をお願いしている。 また、他県の台風被害で樹木が多く倒れ停電の復旧工事がなかなか進まなかったことを踏まえて、県内でも災害防止のため、東京電力と連携し枝おろしや伐採を行う予防伐採の取り組みも行っている。 それらも含めた対応について改めて土木事務所に指示をしていきたい。	県土整備部 道路保全課(道路管 理担当) Tel2429

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
4	高齢者の移動手段の確保について	アンケート2位 (那須烏山市 70歳代女性)	高齢者の移動手段について、県の考え方を伺う。	<p>回答者：知事</p> <p>県としては、路線バスや市町による生活交通（地域内交通コミュニティバスやデマンド交通）に対する運行費補助を行うとともに、第三セクター鉄道に対し、施設整備や経営安定化のための補助を行っている。</p> <p>このほか、中山間地域等における「地域共助型生活交通システム」の導入に向けた市町や地域住民等の取組への支援や公共交通への無人運転技術の導入に向けた取組を進めており、これまでに茂木町、小山市、壬生町、那須塩原市の4ヶ所で自動運転の実証実験を行った。</p> <p>引き続き、地域の公共交通については、市町が主体となり、地域住民の皆様方や交通事業者とも連携し、地域に合った公共交通の確保・充実を図っていくことが必要と考えているため、栃木県生活交通対策協議会等を通じて、市町の取り組みを支援していく。</p> <p>なお、令和5年度に公共交通政策のマスタープランとなる「栃木県地域公共交通計画」（仮称）を策定予定であり、今年度は、基礎調査を行う予定である。計画の中で、県として必要な公共交通サービスのあり方を検討しながら、県・市町・民間事業者の役割を整理していく。</p> <p>地域共助型生活交通は、住民の移動手段確保のために、地域住民やNPOが自家用有償旅客運送制度を活用し主体的に運営するものであり、昨年9月に県内初として矢板市でコロナ矢板の運行が開始された。茨城県境町はすでに無人の自動運転を実施している。栃木県も参考にしながら地域の皆さんが安心して生活できるような仕組みを作れるようしっかり取り組んでいきたい。</p>	<p>県土整備部 交通政策課 (公共交通担当) Tel.2377</p>
5	急傾斜地の工事終了後の除草作業等の管理について	那須烏山市 50歳代男性	<p>自宅付近の崖（急傾斜地）整備後に崖から生えてくるツタ等の除草について県に確認したところ、「コンクリート部分は県管理」「土地については所有者管理」であり、除草については地主と相談してほしいとのことであった。</p> <p>現状、除草作業の際に柵を乗り越える必要があり、高齢の方だと危険である。</p> <p>安全に出入りを行うために、すでに設置済みの柵及び今後設置する柵に扉をつけるなど管理しやすくしてほしい。</p>	<p>回答者：知事</p> <p>急傾斜地の管理の区分は、「コンクリート部分は県管理」「土地については所有者管理」ということだが、地域の皆さんが除草作業等の管理をしようとしても、柵があり作業が行えないのであれば、県が除草を行うか、管理用扉をつけて所有者が行うかどうかの判断が必要のため、検討して回答したい。</p>	<p>県土整備部 砂防水資源課（砂防技術担当） Tel.2454</p>

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
6	八溝縦貫道路の整備について	那須烏山市 60歳代男性	昔から八溝地区は「広域道路の空白地域」と呼ばれているが、地元の議員や市町長、議会等が中心となり高速道路を作ろうと陳情活動をしている。 栃木県として八溝地区への高速道路整備についての考えを聞きたい。	回答者：知事 八溝縦貫道路整備については皆さまから要望を何度もいただいている。 昨年度には、「とちぎの道路・交通ビジョン2021」の広域道路の構想路線として位置づけたが、その他に関東地方整備局「関東ブロック新広域道路交通計画」、東北地方整備局「東北地方新広域道路交通計画」、茨城県「茨城県広域道路交通計画」、福島県「福島県新広域道路交通計画」においても構想路線として位置づけられた。 また、国では、計画に位置付けられた路線に対し、重要物流道路の指定を進めている。重要物流道路の整備により、産業を支える大型トレーラー等の大型車のスムーズな走行が確保されるとともに、災害時においても確実に物資を輸送することが可能となる。 一日も早く整備路線として格上げされるように、八溝地域の市町や茨城県など関係機関と連携しながら、地域の方々の要望に応えられるよう取り組んでいく。	県土整備部 交通政策課(道路計画担当) Tel2409
7	山あげ俳句全国大会実行委員会の動きについて	那須烏山市 80歳代女性	山あげ俳句実行委員会の動きについて報告したい。5月1日に「山あげ」を夏の季語にするという独自の季語宣言を行った。俳句人口の拡大にむけた呼びかけなども行っており、那須烏山市を俳句の町として発展させていきたい。	回答者：知事 山あげを俳句の季語にという取組は大賛成である。 「山あげを 上げてコロナを 追い払う」というようなことになればよいと思う。	県民生活部 県民文化課(文化振興担当) Tel2153
8	八溝県民休養公園の活用について	那須烏山市 60歳代男性	「八溝県民休養公園」は、草も生え荒れ放題であり、アスレチックなども朽ち果てている。 那須烏山市の観光・地域振興のため、県として有効活用の方法を御検討いただき、多くの人が訪れるようなにぎわいのある公園としてほしい。	回答者：知事 これまでも要望いただいていたが、皆さまの満足のいく進展がなく申し訳ない。 「八溝県民休養公園」は、県議会100周年を記念して昭和61年に設置されてから35年が経過し、施設の老朽化も進んでいるため、順次ベンチ等施設の改修を進めている。 また、敷地の一部である「県立南那須少年自然の家」跡地は、企業が社会貢献を目的として植栽などの森づくり活動を行う「企業等の森づくり推進事業」の場として御利用いただいている。 今後の整備のあり方については、那須烏山市とも十分に連携を図りながら、地域の皆様の御要望にお応えできるよう検討していく。	環境森林部 自然環境課(自然公園担当) Tel3211

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
9	子どもの貧困対策、医療的ケア児への支援について	那須烏山市 50歳代女性	逼迫している国の財政をこれから支えていく若者は、多くの医療的ケア児や精神を病む若者、高齢者を背負っていかねばならない。そのような中、貧困や、虐待で命を落とす子どもがいるという現状を自分事として捉え、皆で考えていく必要があると思う。	回答者：知事 県としては、7月を目途に医療的ケア児等支援センターを設置するとともに、地域におけるコーディネーター等を中心とした支援チームづくりを推進し、医療的ケア児とその家族が地域で安心して生活できる支援体制を構築していく。 また、市町村における貧困対策計画の策定が努力義務とされたが、令和4年4月現在、18の市町において計画が策定されており、今後、より身近な市町において地域の実情に応じた具体的な施策や支援による貧困対策への取組が進められる中、県においても引き続き市町と連携しながら取り組んで行く。 新型コロナウイルス感染症が長期化する中、具体的な子どもの貧困対策としては、物価高騰等の影響を勘案した、「子育て世帯生活支援特別給付金」をはじめ、各種支援制度を最大限活用しながら、来たるべき社会を見据えて、すべての子供たちが前向きに、夢や希望が持てるよう支援に努めていく。	保健福祉部 障害福祉課（企画推進担当） TEL3491 こども政策課（児童家庭支援・虐待対策担当） TEL3066
10	メグロの聖地プロジェクトの広域連携について	那須烏山市 40歳代男性	「メグロの聖地プロジェクト」として街づくり、観光誘客に取り組んでいる。 ツーリングで訪れる方は市周辺を周遊したり通過したりするので、メグロの聖地を那須烏山市だけでなく広域の観光資源として捉え、県とも連携して取り組んでいきたい。	回答者：知事 素晴らしい着眼点で効果の高いプロジェクトだと思う。 魅力ある観光地づくり、観光誘客を推進し、選ばれる観光地づくりにも取り組むとともに、県としても、「メグロの聖地プロジェクト」の広報宣伝の役割を担っていきたい。 また、インバウンドの再開にあたり、外国人観光客にもPRし足を運んでいただけるような取り組みを進めていきたい。	産業労働観光部 観光交流課（観光地づくり担当） TEL3210 （インバウンド推進担当） TEL3309
11	せせらぎ公園への遊具の設置について	那須烏山市 30歳代男性	那須烏山市は平地が少ない中、市中心部のせせらぎ公園は、保護者にとって子どもを遊ばせるには絶好の場所であるが、遊具の設置がないため市外の施設に行く方もいる。 財政的、法的な制約もあると思うが、子育ての場を確保していただきたく、遊具設置のための配慮をお願いしたい。	回答者：知事 「とちぎ子ども・子育て支援プラン」でも県民が安心して生み育てられる社会の実現に向けて取り組んでいる。 せせらぎ公園は河川を暗渠とした公園であり、管理は市で行っているということなので、県としては遊具の設置に向けた許可等について要望に添えるよう応援していきたい。	県土整備部 河川課（水政管理担当） TEL2442

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
12	広域行政の連携について	那須烏山市 60歳代男性	<p>南那須地区広域行政事務組合では衛生センターの整備が問題になっている。</p> <p>人口減少社会の中で現状規模の整備がなされれば、将来的に能力の余剰が生じ整備が難しい。</p> <p>近隣の塩谷広域行政事務組合、芳賀地区広域行政事務組合等の余剰の能力を3広域等でうまく活用すれば少ない設備で済むのではと思う。</p> <p>このような広域行政の連携について、県のより良い指導、助言をいただきたい。</p>	<p>回答者：知事</p> <p>人口減少社会にあって、ごみ処理施設や斎場を各地域ごとに整備するのではなく、余剰があれば相互に活用することには賛成だが、これまで各広域行政事務組合ごとに様々な計画を立てて努力してきた。</p> <p>余剰があっても、受け入れ側の住民の同意を取り付けなければならないので現状では単独で整備せざるを得ない。人口が減少すれば、設備稼働率が低下し、無駄な投資となってしまうが改善策が出せないのが実態である。</p> <p>しかし、今後は技術開発により連携は可能となりつつある。下水処理施設では発生したガスで発電し、余剰電力は売却する時代となった。ごみ処理施設では金属回収が可能となるなど、これまで迷惑施設とされてきた各施設は、希少な生産拠点工場、財産を生み出す場所となった。安全性が保たれる施設ができ、今まで反対運動が起きたような施設も受け入れられるようになってきたため、新たに連携する仕組みをつくることは可能になったが、今まで計画してきたことに割り込む判断はできない。</p> <p>県として調整すべき役割はしっかりと行いたい、理論上は正論でもすぐに解決することは難しい。</p>	<p>総合政策部 市町村課（行政担当） Tel.2122</p>
13	悩みや不安を抱える若者への対応について	那須烏山市 50歳代女性	<p>学童保育の運営に携わり子育て応援活動を続けてきたが、学童保育やボランティア等で接する若い世代（10代～20代）の方が、世代間交流でのコミュニケーションの際など、「年配者が発する言葉の意味」と「若者が受け取る理解」にギャップが生じ、精神的に病んでしまう若者が多いと感じた。栃木県の状況や支援策を伺いたい。</p>	<p>回答者：知事</p> <p>県は、県内すべての母親が、子育てを応援されていると実感できる、妊娠から出産、子育て支援期まで切れ目のない育児支援体制の確立を図っている。</p> <p>市町の子育て世代包括支援センターの活動支援や、産後うつ等に適切に対応できる人材の育成など、県内どこに住んでいても母親と子供が必要とする支援が受けられるよう進めていく。</p> <p>また、小・中・高校生が親等の介護等を行っているヤングケアラー対策のための実態調査を行うなど、10代を中心とした若者の悩みや不安を受けとめて解消できる仕組みを関係機関と連携して構築していきたい。</p> <p>回答者：県民生活部長</p> <p>精神的な不安や困難を抱える若者の対策は県としても重要な課題である。問題が複雑化した相談にワンストップで応じているが、内容が多岐に渡るため、様々な関係機関が連携し対応する仕組みを構築している。</p> <p>また、若者やひきこもりに関する相談に応じる「ポラリス☆とちぎ」も開設しており、新型コロナウイルス感染症の影響もあり精神的な困難を抱える方もいるが、きめ細やかに対応していきたい。</p>	<p>保健福祉部 保健福祉課（地域福祉担当） Tel.3047</p> <p>こども政策課（児童家庭支援・虐待対策担当） Tel.3067 （母子保健担当） Tel.3064</p> <p>障害福祉課（企画推進担当） Tel.3491</p> <p>県民生活部 人権・青少年男女参画課（青少年育成担当） Tel.3075</p>

※関係課名(担当)欄のTel.番号は、栃木県庁028-623-各課共通(4ケタ番号)を記載しています。